

「元氣の出る場所」

鳥取県 梅翁寺ばいおうじ 住職 倉瀧 英信

四年前、私は師匠である父が長年守ってきたお寺の住職を引き継ぎました。その就任式で「お寺は、どんなお方に対しても、門を開いています」と述べました。今思えば、大変な宣言をしてしまったと感じることがあります。自分自身が住職として、この言葉に応えられているだろうかと思うからです。

このようなことを考える時、お寺へ足しげくお参りをされていたある女性の言葉を思い出します。その女性は、私が幼いころからお寺の法要や、婦人会、ご詠歌の活動を熱心にされてきました。いつも笑顔で口癖のように「お寺の門をくぐると、元氣が出るんですよ」とおっしゃっていました。いくら嫌なことがあっても、山門を通れば不思議と気持ちがおとなるのだそうです。

その頃はその言葉に半信半疑でしたが、住職になった今じっくり考えてみると、師匠と母が長年築き上げたものがその女性にしっかりと伝わっていたからこそ、いただいた言葉だと実感します。師匠は毎日境内を掃き清め、お参りしやすい環境を整え、母はお参りされた方に、いつも笑顔でやさしい言葉をかけていました。そのような日々の積み重ねが「お寺の門をくぐると、元氣になるんですよ」という女性の言葉につながったのでしょう。

ひと昔前まで、お寺は誰もが相談できる場所として、一目置かれる地域コミュニティの場でした。しかしながら、現代ではお寺離れが進み、お寺の存在意義が問われています。しかしそのような風潮の中でも、災害時の奉仕活動を始め、人々の心のよりどころとなる活動をする僧侶の方もたくさんいらっしゃいます。私自身のできることは限られていますがお寺の門をくぐると、元氣になれる「よう、微力ながら精進していきたいと思っています。